

第4期多摩区区民会議 第1回コミュニティ部会 摘録

□開催日時	平成24年12月5日(水)	午後6時~8時30分
□会場	多摩区役所6階第601会議室	
□参加者	石橋委員、大津委員、小塚委員、白井委員、戸高委員、西山委員、配島委員、本多委員、松本副部会長	
〔事務局〕	門間課長、井川係長、奈良	〔カイト〕 斉藤、梅田

1 前回議論の振り返りとまとめの確認

コンサルタントから、配布資料にもとづいて、前回議論の振り返りとまとめの確認を行った。
・たまり場づくりの項の虹ヶ丘は、正しくは虹ヶ丘コミュニティであるので修正してほしい。
(本多委員)

2 取組方法、当面の進め方の議論

(1) 第4期の活動について

- ・ 前回の議論をもう少し深めたいので意見を出してください。(松本副部会長)
- ・ 空き店舗・空き家はたくさんあるが、そこを活用となると常駐する人がいるか、家賃はどうするかなど活用はむずかしい。(西山委員)
- ・ コミュニティの重要性は困ったとき頼りになる顔見知りの仲間づくりにある。イベントや祭りで出会うだけの関係では頼りになれる関係にはなれない。定期的に顔合わせができ、引きこもりタイプの人間も出てこれるような場所が必要だ。人間は半径500メートルくらいしか動かないと講演で聞いたから、あちこちにそういう居場所が必要。むずかしいだろうが、やり方を考えれば可能ではないか。(本多委員)
- ・ 引きこもり型の人間は慣れれば来るようになるが、引っ張り出すことを考えないといけない。(松本副部会長)
- ・ 老人いこいの家にはふらっとお風呂に入りに来る人も居る。そういう人はサークルには入らない。人間関係が希薄だ。何か集まるきっかけが必要だ。(大津委員)
- ・ 民生委員の話によると、引きこもりタイプの家に行くと「今日、はじめて人と話した」という人が多いらしい。テレビと話していても人と話さない。(松本副部会長)
- ・ 女性はおしゃべりで社交的だが、男性はなかなか人と話さない。(西山委員)
- ・ 男性は会社員生活が長いから地域となじみがない。(松本副部会長)
- ・ ふらっと来て、安全なのは区役所しかない。(西山委員)
- ・ 空き家やアパートを活用すると、借りる条件を明らかにすることが必要だろう。貸すほうは不特定多数の人が入ってくるのを嫌がって、二の足を踏むだろう。どうやって運営するかをきちんと整えておかないと、交渉できない。(配島委員)
- ・ 私のところのマンションは不特定多数の人の出入りする入居の仕方を問題視した。グループで入ってくると、廊下などで話しながら入ってくるのでうるさがられる。(松本副部会長)
- ・ 世田谷区の場合は、財団が空き家を借り上げ、運営するNPOを公募・審査し、運営をまかせるといったやり方をしている。財団は運営を担うボランティアも育てている。前期はそういうやり方は多摩区ではむずかしいとなったが、本当にできないのか、もう一度挑戦してみてもいいのではないか。(本多委員)

⇒世田谷区は、役所が直接空き家を買って入れて運営することはできないので、中間支援組織

的な財団法人をつくり、そこが活動する人と貸してもよい人を結びつける仕組づくりをしている。運営を担う担い手を育てることもやっている。(事務局)

- ・こちらでしっかりとした条件を設定して、貸してくれる人がいるかどうか問いかけてみてはどうか。(配島委員)
- ・貸してくれるところや、やってくれる人を募集するのもいいが、家の補修や家賃のことなどしっかりした仕組みを考えなくてはならない。(大津委員)
- ・この部会で実態を調べるとよい。先進事例で多摩区に生かせるところがあるかもしれない。(配島委員)
- ・空き教室は実態がわかるのか。(本多委員)
- ・学校はセキュリティがあるから大変。事故があったりすることに過剰防衛的に神経質になっている。(松本副部長)

⇒阿部市長も空き教室の活用を掲げていたが、児童減少で生まれた余裕教室も特別教室に使われたり、実際には、ほとんど空いていないということになった。虹ヶ丘コミュニティは陸の孤島のような地域で、地域活動に使える施設がなにもないことから、たまたま学校が使えるようになった特殊例。学校には児童生徒の持ち物が置いてある場合も多く、活用が進まないのが実態だ。(事務局)

- ・学校は高いところにあたりして高齢者は使いにくいところもある。(大津委員)
- ・国全体は高齢化だが、川崎、横浜は人口が増加している。学校は余裕がないかもしれない。(松本副部長)
- ・幼稚園なども障害のあるお子さんが増えて、その子どもたちのために余裕スペースが使われるので、空きがない。(小塚委員)
- ・たとえば24時間常駐の人がいなければいけないのか、12時間でやるのかなど、ソフトな対応を考えておかないと、場所があっても活用できない。(戸高委員)
- ・半径500メートル以内にふらっと行けるひとつというのであれば、たくさんなければならない。それが理想形だとすれば、生田にひとつあっても登戸の人間はいけないし、その逆もある。そこはどう考えるのか。(白井委員)
- ・試行的にイチからやっていっても、それが第4期のあいだにどこまで増やせるのかという問題だ。(松本副部長)
- ・数多くやろうと思えば思うほど、管理する人が必要だということになってかえってやれなくなる。(白井委員)
- ・だからといって何もしないのではなく、モデル的でよいから東と西に一つずつやってみるという考えもありえるではないか。そこに喜んでやってくる人がいれば、それを広げようということになる。そのすべてをこの部会でやらなければいけないということはないだろう。そういう活動をお世話したいという人たちがあちこちにいるかもしれない。(大津委員)
- ・あちこちにある場所は、どれも同じでなければならないことはない。あるところは空き家で24時間、あるところは土日を開けるというのでよいだろう。(戸高委員)
- ・コミュニティ部会が空いている場所に組織を斡旋することをやってもいいだろう。(本多委員)
- ・モデル的にやって、それが他のところに広がっていくという形か。(白井委員)
- ・平行していろいろな場所でやれるといいが、やはりお年寄りのたまり場を考えることが必要だと思う。(松本副部長)
- ・町会で子ども会の世話をしている。昔は20人くらい集まったが、今の子どもたちはお稽

古がある水泳があると、2人くらいしか来ない。とりあえず、暇をもてあましている出不精の人を引っ張り出すことが必要。(大津委員)

- ・ 果樹園をやっていると、たまたまやってきた子連れのママが、これはいいということでママ友に呼びかけて子連れで15組くらい来たことがある。その人たちが別の機会にパパも一緒にいるときに、挨拶をするようになって、家族で顔見知りになる場合もあるようだ。子どもたちも含めて、新しい交流もできるのではないか。(白井委員)
 - ・ 今のお母さん方は子どもの頃勉強ばかりしてきたので遊び方を知らないし、子どものあやし方も経験がない。母親学級に参加しても、その後の友達がつくれない。子育てに生疑心暗鬼になっている。そこに先輩ママとの交流を仕掛けて、保健師さんも来てもらうようにすれば、若いお母さん方にはとてもいい機会になる。そこにおじいちゃん、おばあちゃんも参加できるようにするというやり方をこ文でやってもいい。子どもたちはおじいちゃん、おばあちゃんがとても好きだ。(小塚委員)
 - ・ 空いている日に、こ文でやってもいい。(大津委員)
 - ・ こ文が一番身近で、数もたくさんある。空いているときがあるから、そこで食べ物をいっしょにつくって、おじいちゃんおばあちゃんも一緒に食べると楽しい。(小塚委員)
 - ・ 多摩区には果樹園があるから、梨のジャムづくりをやってもいいかもしれない。(小塚委員)
 - ・ お母さん方はイベントが大好きです。参加料200円で100人近く来たときもある。(小塚委員)
 - ・ 私たちの活動では家事介護のグループがあって、地域の中の居場所をつくりたいと考えている。他にリユース・リサイクルをやっているグループも地域の活動場所を探している。そういうグループに、地域でのたまり場づくりの実験の場を一緒に探しましょうということもできる。多摩区ではどこにどんな活用スペースがあって、その地域のニーズはどんなもので、活動をやりたいグループはどんなやり方ができるかを調べるというのはいかがでしょうか。世田谷でやっていることを、多摩区ではどんな形でやればできるかを調査してみるのもよいかと思う。それをこの区民会議でやることはどうなのだろうか。(戸高委員)
- ⇒使える場としてどこがあるか。そこでやりたいグループとしてはどんな団体があるか。使える場の所有や管理を区が直接やることはできないので、使える場所とそこを管理できる団体としてはどんなところがあるかを調べ、それをつなぐ仕組みはどんなものかを調査検討することを区民会議でやることは問題ない。(事務局)
- ・ 老人いこいの家は、ウィークデイは夜間、日曜は10時～16時まで空いていることは、前期に調べているから、調べなくてもよい。(本多委員)
 - ・ ワーカーズさんたちがいろいろな場所を活用してくれるといい。農協の上の会議室も活用場所の候補ではないか。(小塚委員)
 - ・ JA セレサ宿河原支店の向かい側の私有駐車場で、毎週木曜日に柿生の生産農家が野菜を持ってきて売っているが、毎回行列ができる人気だ。この管理を地元のおばあちゃんたちがやっている。農協の会議室は3階にあって、エレベーターがない場合はお年寄りには上がれないが、エレベーターがあれば、駅近くで便利なのでいい。(大津委員)
 - ・ 前期の調査で、どこにどんな施設があるかを調べ、マップに載せた。今期は、そこを借りるにはどうしたらいいか利用条件を調べることにする。その地域の活用ニーズも調べ、その場合はどんな活用をこちらがしたいかのある程度の条件を出すことも必要だろう。
 - ・ その地域の人々が利用しやすいところで、まだ居場所がないところをリサーチする。そこではどんなイベントをやると人がくるのか。普通のおときはどんな使い方をしているのか

など。(戸高委員)

- ・ 老人いこいの家は調べがつかっている、今期はこ文を調べるのがいいと思う。また、世田谷など先進事例の調査もしたい。(本多委員)
- ・ では、今期は、こ文の実態調査と、先進事例調査を班に分かれてやることにしたい。いつごろ、どこを調査すればよいかを決めましょう。(松本副部長)

■ こ文及び先進事例調査のスケジュールと進め方

具体的調査箇所、日程などについて話し合いを行い、次のようなスケジュールで調査を行うこととした。

調査箇所	候補日程	参加予定委員	日程調整担当
中野島・菅こども文化センター	1月16日(水)午後2時～	大津、白井、(戸高)、松本	配島委員
三田・錦ヶ丘こども文化センター	1月17日(木) 〃	小塚、戸高、配島、本多	小塚委員
(財)世田谷トラストまちづくり	1月23日(水) 〃	参加可能な委員は誰でも。	本多委員

なお、日程調整にあたっては、次のような点を配慮しながら行う。

○候補日程は参加委員がもっとも都合がよい日程で、できるだけこの日程で調整する。

○ただし、施設側が対応できない場合は、施設の都合が良い日程を聞き再調整を行う。

○(財)世田谷トラストまちづくりについては、次善の候補日として、21日(月)、22日(火)、24日(金)が挙げられ、その中で調整することとなった。時間はいずれも午後2時とする。

○決定した調査日程、集合場所、集合時間、質問事項等については、改めてメールなどで各委員に連絡する。

3 今後の会議スケジュール

今後の会議スケジュールを検討した結果次のように決定した。

第2回コミュニティ部会	平成25年1月28日(月)18:00～	区役所10階会議室
第3回全体会	平成25年2月12日(火)18:00～	区役所11階会議室

4 区民会議ニュースについて

12月末発行予定の区民会議ニュース第1号に載せる、コミュニティ部会の問題解決の方向の語句を議論した結果、次の通り決定した。

「人とのつながりを深める方策づくり」

以上